

校長より 熊本で生まれ、熊本で暮らす友人からのメッセージ（5月11日夕方）

5月も10日が過ぎました。

早いもので、4月14日の地震から、もうすぐ1か月。この間、熊本に起こった出来事は未だに信じ難く、あまりに非日常の体験の中、まだ夢をみているような感覚でいます。

しかしながら、今回、熊本県民は、子どもたちから大人まで、実にたくさんを感じ、学ぶことができたことでしょう。

蛇口をひねれば水の出る有難さ。

当たり前が当たり前ではないということ。

みんな仲良く協力することの大切さ・・・などなど。

ふだんは忘れて暮らしていますが、人間一人では生きられるはずもなく、自然の前では実にちっぽけな存在であり、多くの人を支え合っただけの生活だということが、実感として理解できました。

平凡な生活のなんと愛おしく、すばらしいことか・・・だからこそ、個人が、そして組織が、常日頃から防災に取り組まなければいけません。

今回の熊本地震では、およそ1週間、スーパー、コンビニから商品が消えました。

今はお正月でも、お休みなどないのに、1週間、物が無い・・・というのは、ライフラインが断たれた中で、生命の危険すら感じます。

というわけで、学んだことの二つ目は「日頃の備えが大事」ということで、個人でできる範囲のことを書いてみたいと思います。

脅すわけではありませんが、日本列島に住んでいる限り、断層は地下にたくさん走っているわけで、いつ、どこで何が起きても不思議ではありません。

この際、自分の家はもちろん、実家や職場など、もう一度点検し直した方が良いでしょう。

1 最低3日分の水、食料、燃料

関東や東海方面の人は、「地震がくる、地震がくる・・・」と言われ、1、2週間の備蓄は常識・・・と聞きましたが、本当でしょうか？

私などは、熊本は地震は来ないよねえ・・・などとのんきなことで、本当に今回は、自分のアホさ加減に呆れてしまいました。

皆さん、きっと大丈夫でしょうが、救援物資が届くまでには、しばらく時間がかかるので、当面をしのぐ物は準備しておかなくてははいけませんね。

よく言われますが、ストックしておくのではなく、消費しながら補充をして、常に回しておくことが大切だと思いました。

レトルトや缶詰も日頃の食事に一品利用する、寝る前にはヤカンや桶に水を張る、ガソリンなども半分を切ったら満タンにする・・・とか、ちょっとした習慣やクセにしておくと、気楽に防災準備ができそうです。

掃除好きな人は嫌かもしれませんが、お風呂の残り湯も取っておくと良いと思います。

これで、我が家は1週間、なんとかトイレの水に困りませんでした。

水の容器は栓のついているものをおすすめです。

2 カセットコンロやウエットティッシュ、懐中電灯

これは、大体の家庭にあると思いますが、ウエットティッシュなどは水が使えなくなった時の必需品ですね。

懐中電灯も大中小あるといいです。両手が使えるようにネックレス式のタイプもあります。

3 処分しようと思っていた毛布やダウン

今回、とても役に立ったものです。

羽毛布団を使うようになって、今までのように毛布も要らないかなあ・・・と、処分しようとして

いましたが、避難所で寝る時には大変重宝しました。
最近では断捨離がブームで、必要最小限の物しか持たないような暮らしの提案がなされていますが、いざという時にはやっぱり困ります。困らない程度には持っておきましょう。
寝袋を持っている人はそれもいいですね。季節によっては貼るカイロがあると寒さが防げます。

4 車のソケットにつなぐスマホの充電ケーブル

充電器も避難所にきちんと設置されるのに、何日か、かかりました。
それにみんななので、とても足りません。
私は1年くらい前に買っぱなしで使わないでいたのですが、今回はとても役立ちました。おかげで、全国の人々と連絡とれたし・・・。

5 お薬手帳と5日分くらいの薬はいつも持ち歩くこと

我々くらいの年になると薬と付き合っている人も多いかもかもしれませんね。
慌てて逃げ出して、持病を悪化させた人も多いです。
絶対に欠かせない薬を飲んでいる人は、いつもバッグに持っていた方が安心です。
せめて名前がわかれば避難所で何とかできるので、お薬手帳は常に持つておくことです。
高齢者はほとんど何らかの薬を飲んでいるので、両親の薬などは、もう一度確認しておいた方がいいですよ。

6 車の中にブルーシートとちょっとした救急用品

ブルーシートもすぐ避難所で必要でしたし、屋根の瓦が落ちた時には応急処置に必要です。(ただし、こちらは少し厚めがいいけれど)
私は、民生委員の研修を受けた後、ちょっとした救急用品を車の中に入れておくようになりましたが、これも役に立ちました。
ハサミやリバテープ、マスクなど日にちが経つと避難所にも置かれるようにはなりませんが、やっぱり持つておいた方が便利です。

7 割りばしと海苔、梅干し、ふりかけ

避難所では1週間、朝、昼、晩、炭水化物（ご飯か菓子パン）と水でした。
文句は言えないけれど、これでは身が持たない・・・と、最初の夜はすぐに海苔とふりかけ、梅干しを取りに帰りました。割りばしも必須でした。
次の日からは、昼、帰った時に一品おかずを用意して避難所に持って行きましたが、ある学校の避難所は地域からの差し入れが豊富にあり、「あそこには食事がある！」と評判だったようで、その辺は避難所によって差が出てくるようです。
被災者だけど、その立場に甘えて受け身していると、困難は乗り越えられません。
行政の人たちも忙しいのですから、自分たちの避難所は自分たちで運営する、くらいの気構えが必要だと思いました。

以上、ざっと書いてみました。私は防災を意識して準備していたわけではないのですが、結果的には割と家や車に品物はあって、そう困らずに済んだのは助かったと思います。
今回、熊本地震では、家屋はもちろんですが、熊本城をはじめとする文化財、道路、橋、病院、庁舎など、たくさんの建物が倒壊、被災しました。これで、また日本国の借金が増えることでしょう。
(本当に申し訳ない・・・)

災害は防ぎようがないのだけれど、被害を小さくすることはある程度可能だと思います。それには、一人ひとりの防災への意識と知識を高めていくこと、そして防災に強いまち、コミュニティを作っていくことが肝要だと思います。

いつも長くてごめんなさい。1つでも役に立てば幸いです。